

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	実技	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能				

《授業の概要》

いつの時代も健康的な生き方は人類の理想でありながら、近年は身体を動かして活動することや他者と関わる機会が希薄になった時代ともいえる。そこで、本科目では球技などのチームスポーツを通じて、健康の維持・増進を図りながら、チームスポーツにおける協働について学ぶ。社会は協働できる職業人を求めていることを念頭に置き、様々なチームスポーツを通じてコミュニケーションスキルを身につける。

《授業の到達目標》

本科目では、主に球技などのチームスポーツを通じて、以下の目標の到達を目指す。本授業で取り組むスポーツ各種の基本的なルールを理解して基本動作を修得し、ゲームを実践することができる。誰とでも良好な人間関係を構築しながら、チームパフォーマンスが高まる方法を考え、実行することができる。チームスポーツにおけるコミュニケーションについて説明できる。

《成績評価の方法》

本授業で取り組むスポーツ各種の成績およびチームへの貢献度を75%、最終レポート25%とし、総合評価60点以上を合格とする。積極的なプレーや意欲などを加点要素、消極的なプレーは減点要素として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体育大会の競技練習(1)	体育大会の競技種目について、ルールや注意事項について理解をを深める〔時間外学習〕競技運営集を参考にして各競技のルールを予習すること(合計1時間)
2	体育大会の競技練習(2)	体育大会委員が中心となり、出場する競技を決定する。〔時間外学習〕令和5年度の体育大会について予習・復習すること(合計1時間)
3	体育大会の競技練習(3)	出場する競技の練習に取り組む。〔時間外学習〕出場する競技について予習・復習すること(合計1時間)
4	体育大会	出場する競技について、練習してきた成果が発揮できるよう最後まであきらめずに取り組む。〔時間外学習〕出場する競技のルール確認および練習(合計1時間)
5	ポッチャ	基本的なルール、得点集計、戦術の理解、ゲームの実践〔時間外学習〕ポッチャの基本的なルール、得点集計について予習・復習すること(合計1時間)
6	バレーボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること(合計1時間)
7	バレーボールリーグ戦の実施(1)	各チーム総当たりのリーグ戦〔時間外学習〕本次のゲーム結果を振り返り、パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む(予習・復習1時間)
8	バレーボールリーグ戦の実施(2)	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う(予習・復習1時間)
9	ポートボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書で基本的なルール(バスケット)を予習、基本動作の復習(合計1時間)
10	ポートボールリーグ戦の実施(1)	各チーム総当たりのリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う(予習・復習1時間)
11	ポートボールリーグ戦の実施(2)	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う(予習・復習1時間)
12	卓球基礎練習・リーグ戦(1)	基本的なルールの理解、ダブルスのコンビネーションを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕卓球(ダブルス)の基本的なルールを予習(合計1時間)
13	卓球リーグ戦(2)	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてペアで話し合う(予習・復習1時間)
14	バドミントン基礎練習・リーグ戦(1)	基本的なルールの理解、ダブルスのコンビネーションを深める練習〔時間外学習〕参考図書で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること(合計1時間)
15	バドミントンリーグ戦(2)	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてペアで話し合う(予習・復習1時間)

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

豊田 博(編)他『最新スポーツルール百科2000』. 2000年4月15日. 大修館書店
 平下政美『実践・生涯スポーツ』. 平成7年5月19日. 不昧堂出版
 中村敏雄(編)『スポーツ文化論シリーズ スポーツコミュニケーション論』1995年7月15日. (有)創文企画

《授業時間外学習》

本授業で取り組むスポーツ各種に関する基本的なルール・基本動作について、予習・復習しておくこと。(本授業では15時間の時間外学習を必要とする)

《課題に対するフィードバック等》

最終レポートは授業終了後(第15回)に提出する。TEAMSを用いて、レポート内容の評価およびコメントを成績公表前までにフィードバックする。

《教養科目》

科目名	情報処理				
担当者氏名	大野 謙太郎				
授業方法	実習	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

ICT(Information & Communication Technology)社会の到来を受け、情報処理技術が職場や日常生活の中に広く普及しておりその修得が期待されている。そこでこのような社会のニーズに応えるため、ワープロ、表計算といったアプリケーションについて学び、またインターネットを利用する際の注意点や検索技術、タイピング技術、情報倫理に関する知識についても学ぶ

《テキスト》

大石博雄 イチからしっかり学ぶ!「Office基礎と情報モラル」(Office365・Office2019対応) noa出版
 大石博雄 2024年度版情報倫理ハンドブック」noa出版 Webテキスト

《参考図書》

《授業の到達目標》

情報倫理について説明できる
 ワードの基礎的な操作ができる
 エクセルの基礎的な操作ができる
 パワーポイントの基礎的な操作ができる
 インターネットを使って情報検索ができる
 キーボードのスムーズな操作ができる

《授業時間外学習》

処理速度向上のためタイピング練習や授業中の内容を復習することが望ましい。
 本授業では15時間の授業時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

授業中の課題の進捗(70%)小テスト(30%)を総合的に判断する。
 総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

授業内講評やファイルサーバー内でフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本学コンピュータシステムの概要	本学コンピュータシステムの利用方法、ネットワークを利用するための留意点 準備学習：入学準備説明会での内容を復習しておくこと。
2	情報倫理、インターネット	情報セキュリティ、情報リテラシー、著作権、個人情報の取り扱い、ネットコミュニケーション、ウイルス 準備学習：情報倫理ハンドブックの1・2を読んでおくこと。
3	情報倫理、タイピング	コンピュータを利用するために必要不可欠なキーボード操作(タイピング) 準備学習：情報倫理ハンドブック3・4を読んでおくこと。
4	情報倫理小テスト、パソコン操作	エクスプローラ、ファイル操作、フォルダ操作、移動とコピー、ファイル管理 準備学習：テキストP2-34を読んでおくこと。
5	ワードの基礎(起動と設定)	起動、スタート画面構成、新規作成、文書画面構成、印刷、IME設定、入力と変換、範囲指定、一括変換と文節変換 準備学習：テキストP35-65を読んでおくこと。
6	文書作成(チラシ作成)	書式設定、インデント、罫線、表作成、表編集、画像挿入、印刷 準備学習：テキストP66-87を読んでおくこと。
7	文書作成(レポート作成)	表紙の作成、編集、図の挿入、グラフの挿入、引用、図表番号、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正 準備学習：テキストP88-104を読んでおくこと。
8	エクセルの基礎	起動、スタート画面、ブックの新規作成、画面構成、範囲指定、終了処理 準備学習：テキストP105-112を読んでおくこと。
9	表の作成	データの入力、訂正、削除、オートフィル、フォント設定、配置設定、表示形式設定、罫線、行や列の変更 準備学習：テキストP113-126を読んでおくこと。
10	表の編集	印刷イメージの確認、改ページ、ページ設定印刷タイトルの設定、ヘッダー、フッター、印刷 準備学習：テキストP127-132を読んでおくこと。
11	計算の設定	計算式、数式、演算記号、参照、関数の利用 準備学習：P133-155までを読んでおくこと。
12	グラフ作成 エクセル小テスト	グラフの種類、グラフ作成、移動とサイズ変更、グラフの要素、グラフの編集、複合グラフ 準備学習：P156-178までを読んでおくこと。
13	パワーポイントの基礎	プレゼンテーションの基本、プレゼンテーションの要点、形式、ツール、プレゼンテーションの流れ、適切なゴール設定 準備学習：P180-187までを読んでおくこと。
14	パワーポイントの起動と作成	起動、スタート画面、画面構成、スライド作成、効果の設定 準備学習：P188-205までを読んでおくこと。
15	パワーポイントの編集	ワードアート、SmartArt、ワザイロ画像、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成 準備学習：P206-P221までを読んでおくこと。

《教養科目》

科目名	英語 A				
担当者氏名	ロス マシュー デビド ケシー				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

日常会話と専門的英語を学修します。場面を設定しそこでの対話を考えます。エッセイに関しては作成後個別に教員が対面で指導を行います。エッセイについてプレゼンテーションを行います。

《テキスト》

English Day
Robert Hickling
2023 Kinseido publishing

《参考図書》

その都度指示します。

《授業の到達目標》

- (1) 英語を学ぶことと使うことを楽しむことができる。
- (2) 英検の準二級合格に備えることができる。
- (3) 日常単語とフレーズを使う事ができる。
- (4) 基本文型（前置詞や複数形や関係代名詞を含む）を使うことができる。
- (5) 英語が使われる場所や地域の文化的側面を語る事ができる。

《授業時間外学習》

- (1) 学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
- (2) 学生はテキストの単語とフレーズを暗記する。
- (3) 日記を書くこともいい方法である。
- (4) 英検を受験して熟達度を測る。
- (5) 一時間程度の宿題が出される。

《成績評価の方法》

評価方法
宿題と授業中の課題 60%
参加態度 20%
中間と期末試験 20%
総合評価し、60点以上を合格とする

《課題に対するフィードバック等》

課題返却時に口頭でフィードバックし、提出物にはコメントを記載します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導方針、学び方	(授業内容)授業の受け方、英語の学び方、英語での自己紹介 (時間外学習) 英語での自己紹介を書いてくる
2	Getting up 1	(授業内容)現在時制・be動詞 (時間外学習) Unit 1 GRAMMARを解いてくる Home Work 1Aを配ります
3	Getting up 2	(授業内容)質問文の作り方・答え方 (時間外学習) Unit 1の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
4	Breakfast time 1	(授業内容)現在時制・一般動詞 (時間外学習) Unit 2 GRAMMARを解いてくる Quiz 1A, Presentation 1A
5	Breakfast time 2	(授業内容)Wh-で始まる質問文 Who, what, when, where (時間外学習) Unit 2の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
6	Getting ready for school 1	(授業内容)名詞 前置詞・複数形 (時間外学習) Unit 3 GRAMMARを解いてくる Home Work 2Aを配ります
7	Getting ready for school 2	(授業内容)There is/are 構文 (時間外学習) Unit 3の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Presentation 2A
8	First day of class 1	(授業内容)代名詞 中間試験準備 (時間外学習) Unit 4 GRAMMARを解いてくる
9	First day of class 2	(授業内容)個別指導面接 中間試験 (時間外学習) Unit 4の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
10	Lunchtime 1	(授業内容)前置詞 in, at, for, of (時間外学習) Unit 5 GRAMMARを解いてくる Home Work 3Aを配ります Presentation 3A
11	Lunchtime 2	(授業内容)冠詞 a, an, the (時間外学習) Unit 5の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
12	Shopping 1	(授業内容)WH疑問文 Why, How (時間外学習) Unit 6 GRAMMARを解いてくる Quiz 2A
13	Shopping 2	(授業内容)Polite vs Casual 会話 (時間外学習) Unit 6の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Presentation 4A
14	Getting lost 1	(授業内容)過去時制 (時間外学習) Unit 7 GRAMMARを解いてくる Home Work 4Aを配ります
15	Getting lost 2	(授業内容)個別英語面接 期末試験 (時間外学習) Unit 7の単語を調べ、本文の訳を書いてくる

《教養科目》

科目名	日本語と表現				
担当者氏名	吉野 寿一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

日本語に関する基本的な内容を理解し、それを生かして、音声言語・文字言語の両面にわたっての技能の向上を図る。

グループによる協議・発表等、アクティブ・ラーニングの手法を用い、主体的・対話的な学習を通して、必要な技能を身に付ける。具体的には、新聞記事を使った言語活動 随筆をテーマにした言語活動 レポート活用した言語活動 敬語に焦点をあてた言語活動等を行う。

《授業の到達目標》

目的・相手・場等に応じて、適切な日本語を用いて表現することができる。

音声・文字の両面にわたって、その特性を踏まえ、適切に日本語を表現することのよさを理解し、実践できる。

《成績評価の方法》

平常点（レポート・プリント等）60%と筆記試験40%を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業における平常点は、授業中の課題の作品への評価や授業時間外の学修への取り組みの内容を重視する。

《テキスト》

各時間にプリントを配布する。

《参考図書》

三省堂編集部著『新しい日本語表記ハンドブック』第六版 三省堂
池田悠子著『やさしい日本語指導 音韻・音声』凡人社

《授業時間外学習》

授業で取り上げた内容について、日常の言語生活を省察し、課題及び解決策についてまとめる。また、学んだ内容を積極的に活用することで、より定着を図る。優れた日本語表現の採集を日常的に行い、日本語への自覚を高める。

毎回の授業について、予習及び復習を中心に4時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたプリント等は、内容を確認し、講評などを付して翌週以降の授業日にフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーションツールとしての挨拶と対話	コミュニケーションツールとしての挨拶・対話のあり方について理解し、演習する。時間外学習：学んだ内容について、実践したことをまとめる。
2	新聞の特質と紙面構成	新聞の特質と紙面構成について学び、複数記事の比較を通して学んだことをまとめる。時間外学習：一定期間新聞を読み続け、その特質をまとめる。
3	新聞記事から要約文・感想文へ	新聞記事を読んで要約し、感想文にまとめる方法を理解する。時間外学習：記事内容を的確にまとめた要約文になっているかを中心に推敲する。
4	要約文・感想文へのまとめ方	それぞれが作成した要約文や感想文を読み合い相互評価する。（グループ発表）時間外学習：要約文や感想文へのまとめ方について学んだことを整理する。
5	随筆から学ぶ レトリックを知る	文章のジャンルとしての随筆の特徴を理解する。レトリック（修辞法）を知る。時間外学習：身近な随筆の例を収集し、随筆の特徴を理解する。
6	随筆を書く レトリックを使う	身近な生活から題材を見つけ、レトリックを使い与えられた字数内で随筆を書く。時間外学習：書き手の思いや考えが読み手に伝わるかを中心に随筆を推敲する。
7	随筆を読み合う より良い表現をめざす	書き上げた随筆をグループで読み合い、相互評価する。（グループ発表・討議）時間外学習：他の随筆から学んだことを整理し、まとめる。
8	レポートや研究論文の特徴	レポートや研究論文の形式・内容について理解する。時間外学習：レポートや研究論文の例を収集し、形式・内容についてまとめる。
9	レポート作成に向けた資料の収集	テーマに即して、資料等を収集する。時間外学習：関係資料の収集、データの蓄積及びそれらをもとにした考察をまとめる。
10	レポートの作成 説得力のある文章へ	収集した資料・データ等をもとに、説得力のあるレポートを作成する。時間外学習：レポートとしての形式・内容を整えてまとめる。レポートを仕上げる。
11	作成したレポートの相互評価・良い表現を学ぶ	作成したレポートをグループで読み合い、相互評価を行う。（グループ発表・討議）時間外学習：他のレポートから学んだこと、今後に生かしたいこと等をまとめる。
12	接遇表現と日本語の敬語	接遇表現としての日本語の敬語のあり方について理解する。時間外学習：敬語の種類について整理し、その正しい使い方について理解する。
13	敬語の使い方：手紙文やメール等を想定して	敬語の使い方の実際として、敬語を用いた手紙文やメール文を仕上げる。時間外学習：手紙文やメール文の形式及び敬語を用いた書き方の要点をまとめる。
14	敬語の使い方：電話対応や面接時を想定して	敬語の使い方の実際として、電話や面接時を想定して演習する。（グループ演習）時間外学習：電話や面接時の敬語の使い方についての要点をまとめる。
15	今後生きる、日本語と表現	日常の言語生活で誤りやすい日本語表現例をもとに、適切な使い方を学ぶ。時間外学習：今後の言語生活における、日本語の使用にあたっての考えをまとめる。

《教養科目》

科目名	コミュニケーション論				
担当者氏名	永杉 徹夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

人と人との関係において最も重要なことは、正しく伝えあい共存していくことであり、基本となるのは「対話」である。つまりどう聴き、話し、書くかだ。対話を通していかに豊かに生きるかを、時事問題と身近な人間関係をとりあげて考える。質疑応答の時間を多くとり配布資料を中心に進める。最新の脳科学と心理学に基づき、苦しみの元となるディスコミュニケーション、つまりその「ゆがみ」についても考察する。

《授業の到達目標》

人間関係の基盤であるコミュニケーションのもつ深みを理解することにより、進んで発信できるようになる。コロナや大災害によってコミュニケーション力、人間関係が従来とどう変わったかについての考えも整理し、討議しあうことにより、より豊かな生きがい発見への道が見えてくる。また、そのために不可欠な考え方、よい言葉づかいと文章化にも自信がつくことにより、人間関係において著しい改善と進歩が自覚できる。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%。授業内で書いてもらう文章（提出し、後日返却）および授業内の発表なども成績に反映させる。また授業に対する真剣度、ノートの取り方、資料のまとめ方なども加味する。筆記試験のほか、これらを総合して20%とする。総合評価60点を合格ラインとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の進め方、受講の仕方について	講義の進め方に合わせて配布資料等の扱い方やノートの取り方などを説明、受講に際しての不安や期待を話しあう 次回までの一週間内に対話で生じた問題を記憶しておく
2	真の成熟への道「対話」を深めるには	成熟への道は対話の中にあるが、真の対話とは触れ合いであり、「生きること」そのものである 次回授業内で「エゴ」とコミュニケーションの関係を口頭発表できるようにしておく
3	自我（エゴ）と社会のあいだにあるもの	自己と社会の間に存在するものは何か 争いは自我（エゴ）による差別意識、コミュニケーション不全から生じる 次回の「ネットいじめ」についての口頭発表に備える
4	自己実現と自己表現の相関性	明言（アサーション）と協調のあいだにあるものと、自己表現の重要性とその裏に潜む「ネットいじめ」や虐待について考える 次回までに脳科学の最新情報に接しておく
5	最新脳科学の成果とコミュニケーション脳	脳科学が明らかにした「ミラーニューロン」と「関係は自己の鏡である」ことの真意を理会し、より良い生き方を探る 次回授業まで、自らの笑いのシーンを記憶しておく
6	ユーモアと笑いのもつ意味とその重要性	「解毒剤」とも言われる笑いの効用と意味を考える。生のなかに占めるユーモアの大切さを知り笑顔によるコミュカを養う 次回のテーマ「慈愛」について熟考しておくこと
7	慈悲、慈愛のもつ真意の理解	愛あつての人間関係で、その底にある慈悲・慈愛についての理解を深めることによって はじめて「真に生きること」が可能である 人間を道具化する怖さについて考えておく
8	「道具的行為」の意味するもの	「道具的行為」等の基礎的用語の真意を理解することにより、より望ましい学びと生き方を考える 次回授業で「スマホと自分」について文章化できるようにしておくこと
9	デジタル化の中のディスコミュニケーション	SNSに象徴される急速なデジタル化とAIのもつ驚異的能力とその弊害について考えるとともに「スマホ脳」について考える 向こう一週間、社会のニュースをよく見ておく
10	マスメディアの受容法	ニュースやネット記事の読み方を通して様々な紛争や犯罪等がなぜ頻発するのか、現実 にかけている事例を取りあげ考える 次回の「育てる」ことについて熟考しておくこと
11	「育てる」ことの科学	幼児教育とコミュニケーション能力の発達は不可分であるが、そのことを具体例を通して考え、実習の成果と反省点についても話しあう 食文化への疑問をまとめておくこと
12	「食べる」ことの意味	「食べること」は作る人、食べる人のコミュニケーションであり、それはまた生きる ことそのものであることを考察 また次回のテーマ「生と死についても考察しておく
13	生と死の問題とコミュニケーション	生死の問題を現代的課題としてとらえ、生あるかぎり「誠実に責任をもって生きる」ためにできることは何かについて考察する 国際人とは何かについても考えておくこと
14	日本の精神と世界精神について	自国文化と世界精神について異文化間コミュニケーションと合わせて学ぶことで国際人としての自覚を養う 学習で得たことを総括し次回授業内で発表できるようにしておく
15	学習により得たこと、疑問点についての話しあい	自己発見と自らの成長ぶりを振り返り、本講義で学んだことにより得た成果について話し合う 後、自宅学習としてポートフォリオの課題に従ってレポート提出すること

《テキスト》

教科書は使用せず、その都度コピーを配布する。

《参考図書》

貴戸理恵著『「コミュニケーション能力がない」と悩むまえに』（岩波ブックレット）2011
 平木典子著『アサーション入門』（講談社現代新書）2014
 渡辺 潤監修『新版 コミュニケーション・スタディーズ』（世界思想社）2021

《授業時間外学習》

配布資料（コピー）の復習をする一方、日常生活の中で生じたコミュニケーション不全について発表しあうので、その準備をしてきてもらう。テーマについてはヒントを与えておき、授業内でその経験を代表が口頭発表し、各々が文章化して提出する。それを添削しコメントをつけて後日返却。本授業では60時間の時間外学習が必要。質問等は講義終了後に受け付ける。

《課題に対するフィードバック等》

授業の中で古今東西の名作絵本を共に読み、その奥深さを味わい、読後感を話しあい発表しあう。またその感想を文章化して提出してもらい、提出された文章は添削して後日返却する。

《教養科目》

科目名	健康と栄養				
担当者氏名	服部 富子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

卒業後に人々の健康の保持・増進やに携わる栄養士として、健康と栄養に関わる知識の修得は重要である。とくに、健康の定義、食事の摂り方、食物アレルギー、生活習慣病、食育推進計画などについて学習する。

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

健康で活力のある生活を送るためには、健康と栄養とがいかに密接であるかを述べることができる。

《授業時間外学習》

授業前に配布された資料は、事前によく読んでおき、予習しておく。また、授業で配布されたプリントを用いて復習し、検索して収集した情報を分析評価し整理する（本授業では29時間の時間外学習が必要である）。

《成績評価の方法》

定期試験（70％）、レポート・提出課題（20％）および討議に臨む態度等（10％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートや提出された課題については内容を確認し、コメントを記載し後日返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康とは	世界保健機関（WHO）憲章の前文とわが国の国民健康づくり運動「健康日本21（第3次）」〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
2	栄養・食と健康	適正な栄養状態、栄養素の欠乏・過剰状態、栄養素相互のバランスが崩れた状態と健康〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
3	健康と食事	持参した食事記録をもとに、自分の食事内容を評価する（演習）〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）、課題〔食事記録の作成〕（1時間）
4	「物」と「食品」	多くの物は、調理されて、人の口に入り、消化・吸収される。調理法により、栄養素の利用は変化する〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
5	乳・幼児期の栄養	身体発育曲線、偏食、食物アレルギー〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
6	成人期の栄養	若い世代の朝食の欠食、生活習慣病の発症予防と重症化予防、「健康な食事（スマートミール）・食環境認証制度」〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
7	高齢期の栄養	健康寿命の延伸に向け、生活習慣病とともに、低栄養、それに起因するフレイルやサルコペニアなどの健康課題がある。〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
8	栄養と食育	埼玉県食育推進計画（第5次）について、収集した情報を分析評価し、ディスカッションを行う。（グループディスカッション）〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	ボランティア論				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

地震、津波、台風等の大規模災害、感染症の蔓延などが頻発している。公的援助が届かない部分へのボランティア活動は欠かせないものになっている。世界では、貧困や格差、紛争の続く地域などへのボランティア活動の重要度を増している。この授業では、様々な視点からボランティア活動に必要な知識や、実際にボランティアに取り組む際の準備について学び、ボランティアをやってみようという積極的な態度を培う。

《授業の到達目標》

海外におけるボランティア活動、国内におけるボランティア活動について理解し、説明できる。

ボランティア活動を行う際の課題を理解したうえで、多面的な視点や能動的な姿勢を身に付けることができる。

《成績評価の方法》

課題レポート70%、授業に臨む態度等（グループワーク、発表学修等）30%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

猪瀬浩平(著)『ボランティアってなんだっけ?』2020年2月、岩波ブックレット
さだまさし(著)『ボランティアをやりたい!』2019年12月、岩波ジュニア新書

《授業時間外学習》

授業前：次の授業回で扱うテーマについて、文献・インターネット等を用いて自己学習する。
授業後：授業で配布された資料等をよく読み込み理解を深め、課題レポートを完成させる。
(本授業では29時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは内容を確認し、次の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ボランティアのすすめ	ボランティアの概念・特徴等について。ボランティア活動の課題[グループ協議]。 [時間外学習]自分の体験したボランティアやそのイメージを考えておく。
2	災害ボランティア	災害ボランティアと心構え、準備について。災害ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習]どのような災害ボランティアがあるか調べておく。
3	社会福祉とボランティア	社会福祉、高齢者問題等とボランティア活動について。その課題[グループ協議]。 [時間外学習]どのような福祉分野のボランティアがあるか調べておく。
4	環境問題とボランティア	環境問題やSDGsの視点からの活動。私たちにできる環境保全[グループ協議]。 [時間外学習]私たちにできる環境保護活動でのボランティアについて調べておく。
5	国際社会とボランティア	様々な国際組織、活躍する日本人について。海外ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習]発展途上国でのボランティアはどんなものかを調べておく。
6	教育・子育てとボランティア	教育・子育て分野の抱える課題とボランティアについて[グループ協議]。 [時間外学習]教育・子育て分野のボランティアのついて調べておく。
7	企業のボランティア	企業の社会貢献活動・社会貢献家について。企業ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習]どんな企業の社会貢献活動があるかを調べておく。
8	ボランティアを始めよう	ボランティア活動の準備と注意点について考える。地域のボランティア[グループ協議、発表学修]。 [時間外学習]身近にある地域のボランティア活動を調べておく。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	子どもと発達				
担当者氏名	中村 敏男、古木 竜太、高橋 淳一郎、東 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能				

《授業の概要》

本科目は、心やからだ、言葉、表現などの面から幼い子どもの発達の特性についてグループワークやその発表を通して学ぶ。保育者を目指す学生の入門的な内容の科目ではあるが、保育や子どもに興味があり、保育所等に就職を希望する学生が保育学・教育学・心理学に関する教養を高めるために学ぶことのできる内容でもある。

《テキスト》

必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

子どもの発達について様々な側面から理解し、説明することができる。また、子どもの発達に関する基礎的な知識を身につけ、今日の人間の発達に関わる課題について考察を深め、討議することができる。

《授業時間外学習》

必要に応じて課題を出すので、自己学習を行うこと。本授業では、30時間程度の時間外学習を必要とする。

《成績評価の方法》

レポート（60%）、観察記録（40%）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートは授業の中で適宜解説を加え、フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達と教育（高橋）	発達の諸様相・教育の必要性についての理解〔時間外学習〕「育みたい資質・能力」「育てほしい10の姿」について、予習・復習する。
2	からだの発達（古木）	人間の身体的側面の発達の理解〔時間外学習〕「立腰教育」「はだし保育」など「教育」「保育」について予習・復習する。
3	心の発達（高橋）	人間の心理的側面の発達の理解〔時間外学習〕発達段階と発達課題について予習・復習する。
4	言葉の発達（中村）	人間の言語的側面の発達の理解〔時間外学習〕「クーイング」「一語文」「二語文」について予習・復習する。
5	表現の発達（古木）	人間の表現の発達の理解〔時間外学習〕教育要領、保育指針の「表現」の内容を予習し、「ごっこ遊び」の復習をする。
6	発達に遅れがある子どもへの指導・支援（東）	発達に遅れのある子どもに見られる遅れの背景・要因、基本的な指導・支援の理解〔時間外学習〕障害の種別について調べ、その特性や把握の仕方について予習・復習する。
7	発達における今日的課題（東）	子どもの発達を保障する職業に就くうえでおさえるべき課題の理解〔時間外学習〕特別支援教育の目的、保育指導のあり方について予習・復習する。
8	発達と生涯学習（中村）	生涯学習の重要性の理解〔時間外学習〕これまでの学修内容から設定したテーマに基づき課題レポートを完成させる。
9	・	・
10	・	・
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

《教養科目》

科目名	生活の科学				
担当者氏名	落合 啓志				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能				

《授業の概要》

生活の中にある平凡な事象から科学を見出し、グループ討議・発表、観察・実験などを通して生活に役立つ知識や科学的な見方・考え方を修得する。なお、グループ討議は4人程度で毎時間実施し、グループのメンバーは毎回変更する。実験のある授業は20人程度で行い、履修者が多い場合は2回に分けて行う。

《テキスト》

なし

《参考図書》

なし。必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

生活の中にある事象について、多面的・多角的・総合的にとらえ、根拠を示して説明したり、科学的な思考ができる。

《授業時間外学習》

復習として、授業で配布した資料を活用してポートフォリオを作成する他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。本授業は29時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて概ね3.7時間の自己学習が必要である。

《成績評価の方法》

筆記試験（20%）、毎回の授業のまとめや感想をポートフォリオにて提出（80%）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたポートフォリオは内容を確認し、次の授業の前日までにコメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	科学的ってどういうこと？	情報をそのままのみにするとだまされることもあります。だまされないために科学的に考えることの意義を学びます。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
2	タマゴから見えてくる科学 実験編	タマゴを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかがタマゴ、されどタマゴ。そこから科学が見えてきます。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
3	タマゴから見えてくる科学 生命編	ニワトリのタマゴの不思議について、いろいろな角度から見ていきます。そこから科学が見えてきます。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
4	紙切れ1枚から見えてくる科学	紙切れを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかが紙切れ、されど紙切れ。そこから科学が見えてきます。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
5	タンポポから見えてくる科学	日頃見かけるタンポポには驚かされることがいっぱいです。タンポポを科学してみます。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
6	チョコレートから見えてくる科学	スーパーやコンビニ売っているチョコレートにも科学が存在します。また環境問題やSDGs問題も潜んでいます。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
7	人間のからだから見えてくる科学	人間のからだって意外と不思議。どうしてこんなことになっているんだろう？ そこから科学が見えてきます。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
8	災害から見えてくる科学 & 授業終了後、試験	地震や台風、水害など避けて通れない災害を科学の目で見てみます。授業終了後、試験を実施します。授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		